佐藤　進教授退職記念号に寄せて

学科主任　山　崎　道　子

本号は佐藤進教授のご退職記念号として出すこととなった。佐藤進教授は昭和46年10月に金沢大学法文学部教授から、本学社会福祉学科教授にご就任になり、以来二十年の長きにわたり社会福祉学科の発展のために多大のご貢献をなされた。とりわけ昭和50年の文学研究科社会福祉学専攻博士課程創設に非常なご尽力をなされた。昭和59年４月から63年３月までは二期四年間、文学部長としての重責を果された。その間人間社会学部の創設に並々ならぬご努力をされたことは関係者の知るところである。佐藤教授は学生の教育や研究に、常にひたむきにその情熱を傾けられ、その誠実で飾らず、率直なご態度は、学生、教職員の敬愛を広く集められたのである。

佐藤教授は本年三月をもって、定年まで二年を残しての退職を選択された。社会福祉学科は人間社会学部への移行期にあり、文学部社会福祉学科は平成５年３月に最後の卒業生を送り出すことになるが、佐藤教授がそれを見届けず先に大学をお去りになることは、まことに残念でならない。

平成４年２月４日に佐藤教授の最終講義が桜楓館大ホールで行なわれた。その主題は「私の学びについて＝社会法学－労働と社会保障の法学－の推移と課題」であり、教授の半世紀に近い学問追究の足跡を万感をこめて、熱っぽく講義された。先生を敬慕する教え子が日本の各地から、また韓国や中国からも集まり、そして文学部社会福祉学科の学生（３年、４年）、人間社会学部社会福祉学科の学生（２年）、教職員、学外の方々も大勢集まり、席を埋めつくした。教授の最終講義を一同が真剣に聴きいった。講義が終ると、しばらく拍手が鳴り止まず、そして教授は教え子から恩師への思いと感謝をいっぱいに込めた美しい花、花、花でうづまった。また、藤本武元社会福祉学科教授と元家政学部長館岡孝教授から友情あふれるお言葉があり、佐藤教授は満面によろこびをたたえておられた。

佐藤教授の最終講義を、先生のご許可を得て録音をそのままおこして掲載することとした。教授の最終講義には是非とも出席したいと願っていた卒業生の中にも当日、入学試験や会議等で不可能になった人も少なくない。また、教授をお慕いする多くの社会福祉学科の卒業生や出席できなかった在校生の方たちにも教授の最終講義に触れていただきたいと思うものである。

佐藤教授は平成４年３月で退職されるが、その学問追究への情熱と、日本中はもちろん、世界をかけめぐる行動力は、いささかも衰えず、ますますの意欲をさえ感じさせられる。教授の最終講義を、教授の好きな言葉「働け、働け、何かが生まれる」で結ばれたが、教授はこのお言葉通りに今後いっそうのご活躍をされること、そして立派な著書を、これまでの数えきれない程のご著書にさらに加えられることを願って止まない。長年の社会福祉学科に対するご貢献と、私どもに与えてくださったご厚情に尽きぬ感謝の思いを本号にこめるものである。